




学位論文審査の結果の要旨

平成 30年 5月 2日

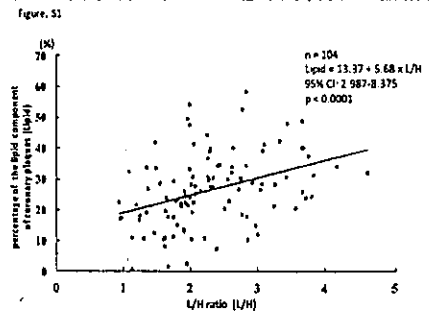
審査委員	主査	堀井 泰浩		
	副主査	田宮 隆		
	副主査	星野 克明		
願出者	専攻	分子情報制御医学	部門	病態制御医学
	学籍番号	15D736	氏名	河上 良
論文題目	Role of the Low-Density Lipoprotein-Cholesterol/High-Density Lipoprotein-Cholesterol Ratio in Predicting Serial Changes in the Lipid Component of Coronary Plaque			
学位論文の審査結果	<input checked="" type="radio"/> 合格	<input type="radio"/> 不合格	(該当するものを○で囲むこと。)	

〔要旨〕

本研究では、不安定プラークの破綻による急性冠症候群の結果生じる虚血性心筋症が死因の多数を閉める背景の中、経皮的冠動脈形成術（PCI）が必要とされる急性冠症候群及び安定狭心症患者において、初回及び6ヶ月後のフォローPCI時に同冠動脈部位に対してIntegrated backscatter intravascular ultrasound（IB-IVUS）が施行可能であった連続141例を登録とし、IB-IVUSによる冠動脈プラーク脂質成分率及び6ヶ月間での脂質成分変化率と、患者背景・各脂質成分の関連性についてコホート研究が行われた。

本研究の結果より、

1. 単変量解析結果から各脂質成分（TC、LDL-C、HDL-C、L/H比、non-HDL-C、TG）において、L/H比が冠動脈プラーク脂質成分比率ともっとも強く関連を示す（Figure S1）
2. その他の冠危険因子（年齢、BMI、血圧、糖尿病）を用いた多変量解析結果からもL/H比が独立して冠動脈プラーク脂質成分比率と最も強く固定効果を有している
3. 6ヶ月間における冠動脈プラーク脂質変化率と各脂質成分変化量においても、L/H比が最も強く固定効果を有している
4. さらにガイドラインで示される厳格な脂質管理目標（LDL-C<100mg/dL）を達成している患者群においても、L/H比が冠動脈プラーク脂質成分率と最も強く固定効果を有している



ことが示され、プラーク不安定化に関与する冠動脈プラーク脂質成分率の変化を予測する冠危険因子として、LDL-/HDL-コレステロール比率がもっとも関連のあることが示唆された。

上記内容につき発表の後、指定討論者、各審査員から下記が多岐にわたる事項につき質問があった。

1. プラーク性状の評価（不安定性）におけるIB-IVUSの適応範囲および意義
2. 現脂質管理目標ガイドラインで評価されているLDL-Cと比較し、L/H比の有用性
3. L/H比の有用性を得た場合のcut-off値の設定
4. L/H比のプラーク組織性状に関与するメカニズム
5. サブ解析としての糖尿病及び喫煙群におけるL/H比評価の有用性
6. 臨床応用之際してL/H比を下げるための治療方針
7. 冠動脈プラーク組織性状評価におけるIVUS以外の画像診断及びその有用性
8. 新たな脂質管理診断基準におけるL/H比の今後の展望
9. L/H比に影響を与えるLDL-C絶対値の評価（強力なLDL-C低下群におけるL/H比の意義）
10. HDL-C絶対値の関与およびHDL-C改善治療法

その各々につき適切な回答が得られた。

本論文は、循環器診療における重要な話題の一つである、虚血性心疾患に対する脂質管理に関する研究で臨床的意義が高く、学位審査に合格に値するものと判断した。

よって審査員は一致して本論文が医学博士の称号を授与するに相応しいものと認めた。

掲 載 誌 名	Circulation Journal			第 81 卷, 第 10 号
(公表予定) 掲 載 年 月	2017年 9月	出版社(等)名	The Japanese Circulation Society	

(備考) 要旨は、1, 500字以内にまとめてください。